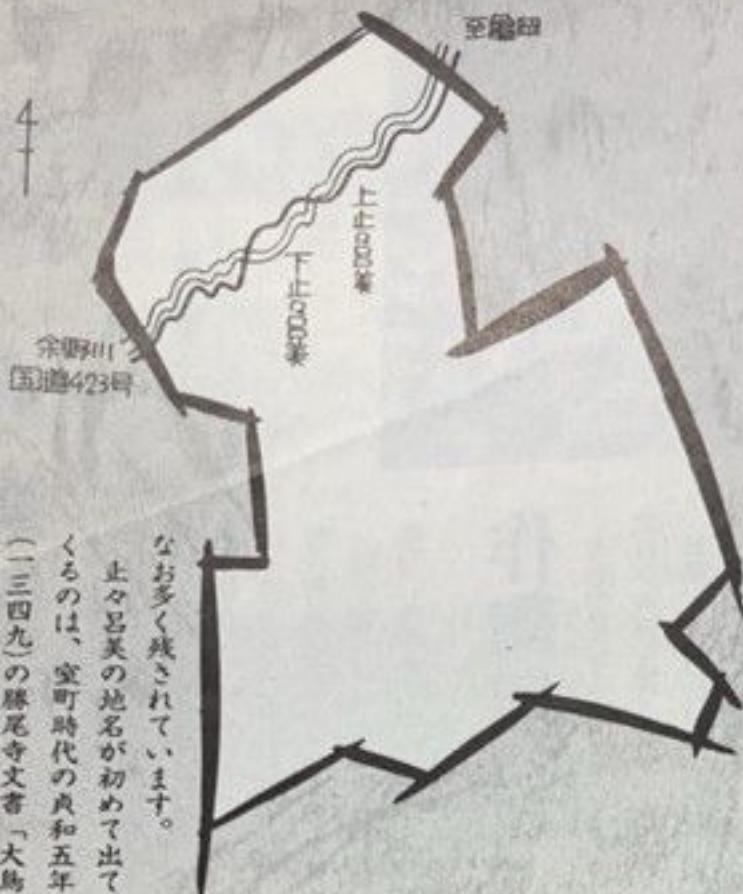


止々呂美地区(一)

山間地帯に位置します。地名の由来にかかる深い余野川が、谷をつくって流れ、集落は山裾の各所に点在しながら、全体として上と下止々呂美の地区に分かれています。

こうした山あいの里を結びながら通る国道は、龜岡を経て京の都に通じる古道でしたから、地区内には平安時代の古仏をはじめ、様々な文化財と史跡が今



この当時、早くも上・下に分寄付されました。
この当時、早くも上・下に分寄付されました。

止々呂美地区は、地区名+庄名を「真河原庄+美河原庄+真川」

にかわったのは、平安時代末の新東地区の地に再建され、天治二年(一一二五)で、庄名を「真河原庄」といいました。このことで知られるように昔の上・下の止々呂美からも「米一斗六升七合、錢二百五十文」が

置された當時であるうと考えられます。

それでも上・下の止々呂美村が設

けられました。

この当時、早くも上・下に分寄付されました。

止々呂美の地名が初めて出てくるのは、室町時代の貞和五年(一三四九)の藤尾寺文書「大鳥居造立条々注文」に見える「止々呂美上下」です。この年、藤

かれていた止々呂美地方は、比叡山の淨土寺門跡の所領莊園で、止々呂美庄と称していました。

原庄+止々呂美庄+止々呂政庄+森見之庄と変転しています。

字があたられ、地名として固定

した時期は、戦乱の時代が終り、天下を統一して新し、時代をもたらした豊臣秀吉の時代、それも上・下の止々呂美村が設置された當時であるうと考えられています。

川と水、それも余野川の流れが、止々呂美の地名を生みだしていたのです。

川と水、それも余野川の流れが、止々呂美の地名を生みだしていたのです。